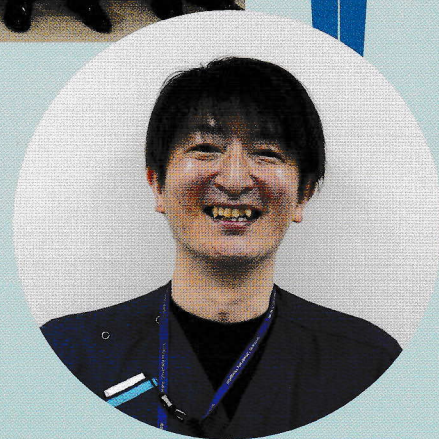
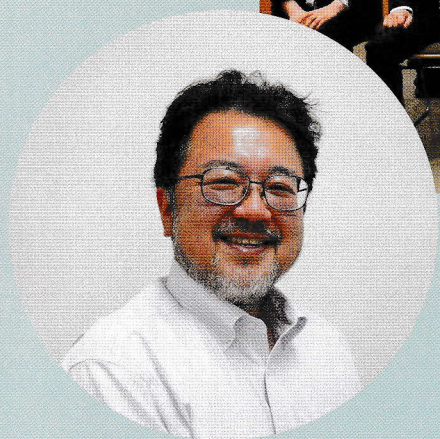


WE
LOVE

July 2024

地域医療支援学レター

vol.
48



CONTENTS

● 活動報告

● セミナー報告

リレートーク第48回

● 地域医療の一翼を担う

一民間病院の病院総合診療の実情

総合病院 松江生協病院

院長 眞木 高之 先生



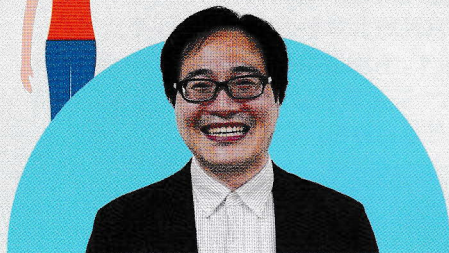


セミナー報告

SEMINAR REPORT



地域医療セミナー



「地域で働くこと」

【実施日】令和6年4月25日(木)18:00~19:00

【講師】浜田市国民健康保険 あさひ診療所
所長 上野 伸行 先生

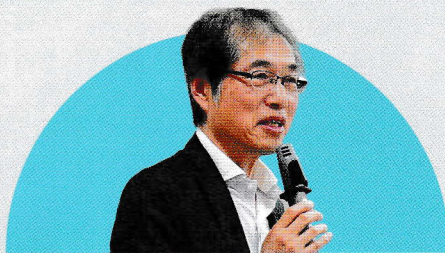
【参加者】22名(学生 14名)

概要

先生は東京葛飾区のご出身で、島根大学医学部33期生で卒業し、島根県で総合診療医になられた。

先生は診療所の役割について「困ったときに何でも相談できる場所」「患者と専科の架け橋、患者と地域の架け橋、患者と行政の架け橋」「住民に安心を与える」事と、患者にとって本当の幸せは何かを志向しながら診療にあたるのが大切と話された。

さらに、事例紹介を通し学生とディスカッションをしながら、「総合診療医として働くことは地域社会に貢献する素晴らしい機会である。地域の人々との信頼関係を築きながら、幅広い病気や健康問題に対処、地域全体の健康と福祉に貢献できる。地域のニーズに応じて、予防医療や健康教育、患者のケアマネジメントなど、様々な役割を果たすことができる。」と熱く語られた。



人生の岐路に出会いの意味を知る

～寄生虫が教えてくれる、それは人と人との相互作用の賜物～

【実施日】令和6年5月18日(土)15:00~17:00

【講師】福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座
前教授 福島 哲仁 先生

【参加者】37名(学生 12名)

概要

先生は島根医科大学3期生で、地域医療研究会のOBである。今回は特別講演として、人生の中で岐路となった出会いを中心にお話し頂いた。高校の恩師、大学で地域医療研究会、予防医学の教授、海外留学への進言をしてくれた恩師、研究者へと導いてくれた留学先の教授など、岐路には出会いがあったそうである。

後半はかつて研究の中心であった寄生虫のお話をされた。寄生虫と宿主の相互作用により寄生虫の虫生も変わることを見せていただいた。

最後に「寄生虫と宿主にも相互関係があるように、人の人生にも人と人の相互関係があり、これまで出会った恩師や地域研究会の仲間との出会いがこれまでの軌跡に繋がった。また、それぞれの岐路で選択した道を一生懸命取り組むことが重要」と締めくくられた。



認知症の緩和ケアアプローチ

【実施日】令和6年5月22日(水)18:00~19:00

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長
同オレンジはっとクリニック 東京都地域連携型認知疾患医療
センター長 平原 佐斗司 先生

【参加者】18名(学生 11名)

概要

先生は緩和ケアに関する臨床及び教育活動で多くの貢献をなさっており、緩和ケアに関する講演活動や執筆活動を通じ、多くの医療従事者や一般の人々に情報提供を行っている。

今回は、「認知症の緩和ケアアプローチ」をテーマに、認知症の緩和ケアとそのニーズ、痛みの軌跡と予後、認知症の人が体験しているつらさ、認知症の人の意思決定支援についてお話しされた。

その中で、認知症患者の苦痛は表出されにくく過小評価され易いこと。苦痛の存在を積極的に疑い、苦痛の客観的評価法を用い多職種で評価することが必要であると話され、苦痛の総合的評価方法を説明いただいた。

最後に、「認知症の方であっても、本人には意思があり、意思決定能力を有するものとして扱うことが原則。認知症の人の認知能力に応じて理解できるよう説明した上で、表明された意思は尊重されなければならない」と締めくくられた。

Career Seminar



Acute Care Surgeryの魅力 ～離島出身の私が選んだ道～

【実施日】令和6年4月10日(水)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部附属病院高度外傷センター
講師 下条 芳秀 先生

【参加者】42名

概要

先生は長崎県杵岐市の離島出身である。初期研修中に外傷診療に関するガイドラインに次々と触れ、魅力を感じ積極的に研修等へ参加された。その経験から外科系救急医になりたいという思いが強まり、腫瘍外科を経て救急・集中治療を学びに行かれたそうである。学んでもやはり悔しい思いをする症例を抱えて悩んでいた頃、ACSという概念がアメリカで提唱された。島根大学で初のACS講座ができる話が立ち上がり、心からワクワクしたと当時を振り返られた。

先生はキャリアについて外科の恩師、ACSの立ち上げメンバーである同僚医師等「出会いで完成した」と述べられた。最後に、アドバイスとして人との出会いを大事に、チャンスをものにできるように『常に主体的であれ』と聴講者の背中を押して締めくくられた。



女性外科医のキャリアと家庭の両立について ～憧れの仕事をあきらめないために～

【実施日】令和6年5月21日(火)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部 消化器・総合外科医
助教 高井 清江 先生

【参加者】17名

概要

先生は、内視鏡技術認定医をはじめ専門医資格を持ち、現在は外科の指導医としても活躍されている。外科医でありながら、二人の子育ても経験しつつキャリアを積まれてきた。育休復帰後は大変な時代だったと振り返るが、それでも続けてきたからこそ現在の自分があるとお話しされた。また、外科のイメージとして体力は必要なのか？女性医師お断りの雰囲気は？ライフイベントは？など気になる学生によく聞かれることを答えてくださった。

Take home messageとして「人生は自分のものであり何もせずに諦めるのはもったいない、やりたいことはやってみよう」と話された。外科へのハードルが低くなり外科医を目指す学生も増えたのではないかと感じた。



いろいろなところに行って 知見を増やしましょう

【実施日】令和6年6月3日(月)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部 眼科学講座
教授 谷戸 正樹 先生

【参加者】25名

概要

先生は6年次の臨床実習で当時の教授から熱心な勧誘を受け、眼科学講座に入局された。卒後の基礎研究で「網膜光障害の機構」「光ストレス応答防御機構」を発表。早期緑内障に対する「低侵襲緑内障手術谷戸氏トレビクロミーマイクロフック」制作、更に「内視鏡的毛様体光凝固装置」を開発し、22年4月機器承認、24年6月診療報酬点数加算の業績を残された。

先生を緑内障治療の道へと導いたのは、恩師・千原先生である。経験を重ねる中で「治療して終わりにせず経過も評価しては」と助言を受けられた。これは谷戸先生が執筆された数ある論文テーマの根源であり、若手医師たちにも術後評価の重要性を伝えておられる。

最後に「色々な所に向き、出会い、研究や経験をした事で、医師としての幅広さや多様性を学べる」と締めくくられた。